


表-1. 声楽譜記号一覧 (協会工工四)

記号	名称	解説
(1) ● (赤)	上げ(持ち)	右側の音を出すつもりで尻をしつかり畳につけたまゝ上体又は頭部を上方に稍強く急に持ち上げる。さうするとその右側に記した音高より指頭の半分幅位高い音が出る。
(2) ● (黒)	下げ(居し)	上げの反対に上体を下方に落す。さうすると右側の音高より指頭の半分幅位低い音が出る。
(3) ∴ (赤)	次第上げ	次第上げには種々あつて姿勢は次第にあげる姿勢をとることは変わりはないが、音高は  ならば尺の上音を持続して最後に工の上音にあげる。即ち  である。又  ならば老から四を經過して上に達し  ならば工の上音を持続するのである。前二者を次第上げといふのは当然であるが、後者を次第上げといふのは一寸不合理に聞へる。何故にこの方法を執るかという、上音下音はその音を出すと音はすぐ平音(普通の弦音の高さ)に戻るのが自然である譬へその姿勢をとっていても非常に努力をして持ちこたへてあるものでなければ自然に半音に戻る。上音下音を持続するには一度上下音の姿勢を執つてそのまゝ更に上へ上へ成は下へ下へと姿勢を執らねばならぬ。これでも次第上げ次第下げの名称が音に附せられた名称ではなく発声法であることが解るであろう。
(4) ∴ (黒)	次第下げ (次第居し)	上体を次第に下へ落す。次第上げに準ず。
(5) †		下げの余韻を更に抑へる様にする。これは声切、即ち歌ひ終わりにある。
(6) スツゲン 直吟		上げの直吟は赤線、下げの直吟は黒線である。直吟とはこの音を真直引伸ばすことであるが、音は前述の通り上げの後は自然に降つて平音に戻り、下げの後は昇つて平音に戻る。但しわざわざ戻さうとしてはいけない。姿勢さへ正しければ自然にもどるから別に方法を講じないほうがよい。姿勢は、赤線の際は上げの姿勢を執つていないと次にくる下げがやりにくくなるから注意すべきである。音と音の間にこの符号の無い所があるが、そこは明瞭な直吟を感じられない所か(距離が短い)又は稍強く旋律の変る所である。
(7) △	呑み	咽喉を下げアゴで圧迫しておいて急に呑み込むようにして右側の音を強く出す。これは仮名付にのみあつて生み仮名にはない。
(8) ㄥ	薄掛	弦音の掛音を出す方法を音にもつて来たと思はれる、その位置の二分五厘上でノドを圧迫しつゝ声を左から右廻りに上方に、それから前斜へと投げ出す様にして右側の音を強く出す。喉の圧迫と音を下げを混同してはいけない。薄掛といふのがあつて音を使はず口腔の上部で音(歌詞)を軽く引かけるようにして通るのがあるが同符号を用いた。或音位の二分五厘下にある掛仮名はすべてこの薄掛である。
(9) ㄥ	大掛	普通掛と違ふのは喉を圧迫することが特に強い。
(10) ∴	当(アテ)	音を下方にあるものにぶち当てて跳ね返らせる様にする。即ち右側にある音の下音を出すや否や上音を出すのであるアテの心持で出せばよい。
(11) %	ネーキ	声を前に稍下方に突出す姿勢で、稍下り気味の音を持続するのである。その後では多く次第下げが来るが、場合によってはネーキの下部で音高を降すこともある。
(12) ▲	クダミ	急激な下げで次には跳ね返って下げることになる。
(13) ○	ユルシ	氣息の力を抜く、次第下げの後に来るのが普通である。歌つてゐる時は咽喉が緊張してゐるから咽喉の力を意識的にゆるめるのである。
(14) ㄆ	振い、廻い	顎で記号の形の如く半円を描く。速度の稍早く深いのを「振い」遅く浅いのを「廻い」といふ。廻の次には多く次第上げが来る。
(15) ㄆ	振上げ	振いの強いもので声を突込んで振上げるつもりで出す。
(16) ㄆ	内グキ	廻りの強いもので咽喉を圧迫したまゝで物をえぐる様にして出す。
(17) ▼ (チヂン)	突吟	二分五厘上位で音を断つて氣息を呑み、生仮名即ち母韻を子韻に代へて前方へ向かつて突出す様にして発声する。左側に子韻を記してある。(伸節十七八節)
(18) ∴	スクキ	こゝに出す必要は無いが普通に掛と並べて云はれているあるもので、先づ半シを出して上げる。物を掲ひ上げる様にするからである。此の間隔は二分五厘である。五分以上離れるとスクイとは云へない。

表-2. 声楽譜記号一覧 (保存会工工四)

記号	名称	解説
(1) ○ □	声出 声切	弦楽記号だけを見ながら弾くのに便利のため弦楽記号の右側に書いてある。
(2) 赤字	アキジ 上吟	上体及び頭部を持ち上げて発声する。 特に持上げて母音を強く発するところは●五の如く赤点を附して注意を喚起する。(一種のアクセント)
(3) 黒字	サキジ 下吟	普通の姿勢に復する。又特に強く押える所(キシ)は●合の如く黒点を附して注意を喚起する。(一種のアクセント)
(4)  (赤)	シゲ...アキ 次第上	 。四の下吟から上の上吟へ次第に上げる。
(5)  (黒)	シゲ...サキ 次第下	 。四の上吟から次第に下げて下吟に移る。
(6) 	ネーイ 	ネーイは次第下げ  に似た所があるが発声法が異なる。即ちあごを稍前方に出すようにして下げる。 次第下げとネーイは曲によって程度の差がある。 図示したら左図にほぼ近い。
(7)	アキスイダジ 上直吟 サキスイダジ 下直吟	赤線は上吟、黒線は下吟で、それぞれの線の長さで音の長短を表わす。半拍子以上に用いてある。 二拍子以上も長いものがあるが、音声を変化させないように持続する。
(8) <	ツイ 撮	二分五厘(4分の1拍)の長さについている。 下吟から上吟に撮って上げる。
(9) (ツイアキ 撮上	五分(半拍)の長さについている。低い音から高い音にアゴで半円をえがくように撮り上げて下吟から上吟へ移る。
(10) ●	うちぐい	●老の高さで喉をえぐるように圧迫して母音を軽く発す。
(11) >	クサキ 小掛	アゴを上下に動かし母音を軽く発す。曲によって掛ける程度が違うが一般に小掛は軽く掛けることで、掛けすぎでは大掛になってしまうから注意を要する。
(12) ≫	クサキ 大掛	即ちアゴを急に持ち上げて下げる。この時のどを圧迫して母音を発す。反対になると「スクキ」となる。
(13) ≫≫	特別大掛	十七八節や長ちゃんな節には大掛と異なる特別な大掛があるので、これを区別するためにこの符号を新しく加えた。掛の程度及び掛け方は曲により異なり、同曲同符号でも違っている所がある。
(14) ●●	アツイ 當	顔の前にある物体に声を突き当たる気持で母音を発す。 一種のアクセントである。
(15) △	ヌミ 呑	二仮名歌出しの初の仮名についている。詰った音即ち促音を出すようにして、息を呑込んで歌い出す。 多く弱声部についている。
(16) ▼	ツイダジ 突吟	中巻、仲節、十七八節に出ている。▼の位置の4分の1拍前で声を切り▼の位置で前の仮名の母音を喉を強く圧迫してするどく短く出し、尚次の音も力をゆるめずにつゞけて出す。
(17) ▲	クダミ	急な下吟で、その次は直に上吟に移る、一種のアクセントである。
(18) ○	ユルシ	合○音名の右に○をつけて表す 音声の力をゆるめる記号である。
(19) ♯	ウスバジ 押切	♯老で声を切るののであるが、その余韻を少し低めて消失せしめる。 長く引かぬよう、又下げ過ぎないように注意する。
(20) ●	吟位記号	拍子や五分で音が変わるのは拍子も取り易いので省いてある。二分五厘及び七分五厘で音が変わる場合は音符の位置を確実に示すために弦楽部の右側に ● を附して音符の位置を示してある。打音 ♯ と見誤らないよう注意。